【本居宣長の足跡を巡る（菅笠日記）】

＜※定例会の実施日と菅笠日記6日目（新暦4月12日）と偶然ですが同一日＞

≪コース≫　壺阪山駅前広場10：１0集合後　⇒　土佐街道⇒　光永寺　⇒　子嶋寺　⇒
キトラ古墳（🚻）　四神の館見学（昼食）⇒　檜隈寺跡　⇒
高松塚古墳　⇒　中尾山古墳　⇒　公園館前（解散）

壺阪山駅

サークル長点呼

コース説明

本日の案内担当者18期（公門さま,佐藤さま、西村さま、藤本さま）

全員でストレッジ

出発

土佐街道

土佐街道を光永寺へ向かう

光永寺の人頭石 斉明女帝の宮を訪れた外国人の顔でしょうか。花崗岩に彫られた大きな鼻と耳、前に突き出した顎.

光永寺

親鸞像

小　嶋　寺

壺阪寺に次ぐ古刹。創建については諸説あるが、寺伝では孝謙・桓武天皇の病を癒した報恩大徳により、天平勝宝4(752)年に開かれたとする。一時は21坊もの伽藍を誇り、大和国の観音霊場として信仰を集めた。坂上田村麻呂の蝦夷征伐と清水寺の縁起を描いた謡曲「田村」の発祥地として有名

小嶋寺　境内

小嶋寺　境内

キトラ古墳へ向かう

レンゲと綿帽子

キトラ古墳

四神の館見学

公門さん四神の館内を説明

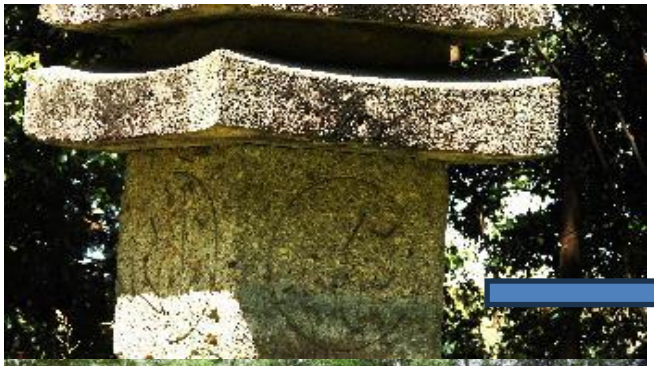
四神は古代中国で誕生し、日本へ伝えられたもので、東は青龍、南は朱雀、西は白虎、北は玄武という神獣がそれぞれ天の四方の方角を守っているといわれています

四神の館前広場で昼食

四神の館内に設置の日本製最高級オルゴール（４１３万円）の演奏曲花を聴く（音色が素晴らしかった）

檜隈寺跡へ向かう

檜隈寺跡



檜隈寺跡

金堂・講堂とその基壇・塔・門・回廊・仏堂などが検出されている。これらの伽藍配置は塔の北に講堂があり、南に金堂を置くという特異な配置、瓦積基壇というエ法は、近江、山城、そして朝鮮半島の寺院で多く用いられている。平安時代に造られた十三重石塔がある。

檜隈寺跡（ヒノクマデラアト）

於美阿志神社（オミアシジンジャ）

白鷺

高松塚古墳へ向かう

田園風景

キジがお出迎え

高松塚古墳

高松塚古墳
石室の壁画が有名で、特に色彩鮮やかな西壁の女子群像は、歴史の教科書などにも紹介されています。世紀末から8世紀初頭にかけて築造された終末期古墳で、直径23m（下段）及び18m（上段）、高さ5mの二段式の円墳。

女子群像

中尾山古墳へ向かう

中尾山古墳

中尾山古墳　天皇陵独特の八角形墳となっている。江戸時代には文武天皇陵とされたが、現在では高松塚古墳の南東約200mにある陵墓を宮内庁が文武天皇陵に指定しており、ここを真の文武天皇陵とするのが研究者の定説。内部には切石を組み合わせた精巧な石槨があり、石材の一部は露出している。　直径30m、一辺約10m八角形墳で二段築造。墳丘規模（3 段築成）高さ 4m、1 段目・2 段目：各高さ約 90 ㎝、3 段目：高さ約 2.2m、外周石敷（3 重）対辺長 32.5m。

中尾山古墳

中尾山古墳

ツツジ

ミツマタ

本居宣長「菅笠日記」

江戸時代の国文学者で、「古事記伝」の著者：本居宣長の両親は、中々子供に恵まれませんでした。　彼の父親が当時から子授けの神として知られていた吉野水分神社にお参りし、そのお蔭をもってこの世に生を受けたのが本居宣長です。

彼が42才の時に、自分のルーツともいうべき吉野を訪れます。その帰りに飛鳥や橿原を訪れ、古事記の裏づけをとっている。

1772 年 3 月 5 日（旧暦）に松阪を立ち 14 日に戻った 10 日間の旅であった。しかも時期としては花の吉野山も目的の一つです。その際の吉野の様子を日記にしたためたのが、この「菅笠日記」です。

サークル長、18期の皆様有難うございます。次回も元気で顔を会わせましょう。